地歴公民(日本史)　慶應義塾大学　文学部　1/1

＜全体分析＞

試験時間　60 分

解答形式

語句選択 34 問　正誤判定１問　記述 23 問　論述２問(100 字、100 字)　計 60 問

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問数５題は昨年度と同じであったが、小問数は 59 問から 60 問に増加した。字数制限のない短文記述問題はみられなかったが、論述問題の字数は合計 160 字から 200 字に増えたため、負担が軽くなったとは言えず、試験時間 60 分は余裕があるとは言えない。

出題の特徴や昨年との変更点

例年通り、Ⅰ・Ⅱが語句選択、Ⅲが空欄補充の記述、Ⅳ・Ⅴが史料を素材とする記述・論述の問題。史料を踏まえて解答を作成する論述問題や、正解となる語句が語群にない場合に「０」と答える形式は文学部特有である。

新課程を踏まえた出題

「歴史総合」に関する出題が小問で６問みられた。

その他トピックス

短文記述の出題はみられなかったが、2009 年度以来の正誤判定問題が出題された。

２年連続で 1980 年代以降が出題されていたが、本年度は 1950 年代までの範囲にとどまった。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	語句選択	中世～近世の仏教	空欄Mの六角氏の本拠である「０（近江）」を解答させる問題は分国法から想起することもできたかもしれないが、やや難しかった。	やや易
Ⅱ	語句選択	政党の復活・日本国憲法の制定過程・1940～50 年代のベトナム	Ｃの「６（立憲民政党）」とＤの「３（日本進歩党）」を選択する問題はやや難しかった。Ｅの「０（日本協同党）」、Ｈの「６（高野岩三郎）」、Ｉの「１（芦田均）」は慶應義塾大学志望者であれば正答を導きたい。空欄Ｋ～Ｐは難問。小問６問がすべて歴史総合からの出題であった。日本史受験者にとっては難しく感じただろう。	難
Ⅲ	記述	大正時代の社会運動	空欄Ｈの「山川菊栄」は初の労働省婦人少年局長になったことも覚えておきたい。	易
Ⅳ	記述 論述	平安時代の朝廷の政争と財政 《史料》	問１の空欄Ｂは、平城京が頭に浮かんだとしても、平城・大和・奈良などのどの地名を答えるか判断に悩んだかもしれない。問３は難問。平城太上天皇か藤原薬子かどちらを記述するか、判断することは難しかった。問６はやや難。史料の内容に知識を組み合わせて答案をまとめることができただろうか。	やや難
Ⅴ	記述 正誤 論述	19 世紀前半の江戸幕府の対外政策 《史料》	問２はやや難。問３・問５は知識を用いるというよりは、史料の文脈から正答を判断する問題であった。問９は 2017 年度にも類似した論述問題が出題されていた。	標準

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

教科書の内容をマスターするとともに、実戦力をつけるために過去問に取り組むことが重要である。それにより、出題の難度を把握するだけでなく、適当な語句がない場合に「０」を選ばせる文学部特有の出題形式に慣れることができる。さらに、Ⅳ・Ⅴで出題される論述問題に対しては、日頃から実際に解答を作成する訓練などを積み、苦手意識をなくしておくことも合格の必須条件となるであろう。歴史総合からの出題もみられたが，まずは日本史探究の分野でしっかり得点できるようにしておきたい。

© 河合塾　2025 年